Case Study
支部ケース・スタディ
東北支部

# くずまき見守り&スマートライフ／プラットフォーム推進事業

## 岩手ケーブルテレビジョン(株)

代表取締役社長
阿部 新一

### ミルクとワインとクリーンエネルギーのまち 葛巻町

岩手郡葛巻町は、岩手県の東北部に位置し、盛岡市から69km、車で約１時間30分程に位置し、周囲を標高1,000m級の山々に囲まれ、約86%が森林で占められた緑豊かな山間地域の町です。

町を流れる馬渕川の支流に沿い集落が形成され、南部藩政時代は、沿岸と内陸を結ぶ交易の要衝で、宿場町として栄え「塩の道～南部牛追い唄の発祥の地」として広く知れ渡っております。

人口6,340人、世帯数2,461世帯、高齢化率42.4%（平成27年国勢調査）となっており、主な基幹産業は、明治25年にホルスタイン種を導入して以来、120年を越える歴史を刻み東北一の酪農の町（乳牛飼養頭数・生乳生産量東北一）へと発展しました。現在では、ワインをはじめとする６次産業、自然エネルギーの風力発電などにも力を注ぎ、「北緯40度 ミルクとワインとクリーンエネルギーのまち」をキャッチフレーズとしています。

### 安全・安心なまちづくり・地域情報通信基盤整備

葛巻町は、平成18年に被害総額約40億円の未曾有の豪雨災害が発生し、町政施行以来、初めて避難勧告を発令しましたが、情報通信基盤の整備が進んでいなかったことで情報伝達に苦慮したところがありました。

こうしたことから町では情報伝達手段の必要性を痛感し、平成20年から3年計画で地域イントラネット基盤施設による屋外告知放送環境、地域情報通信基盤施設による地上デジタル放送視聴環境（CATV）と高速ブロードバンド利用環境を町内全域に構築していきました。

しかし、基盤完成直後の平成23年3月11日に発生した東日本大震災で、情報通信基盤の脆弱性を痛感し、平成24年に防災情報連携システムなどの整備（自主放送用HDテロッパー、FM音声告知端末、エリアワンセグ放送設備、無線による伝送路重層化、非常用自家発電装置等）を行いました。

また、同時に将来を見据えた高齢者福祉等の各分野でのICT利活用を推進し、情報通信技術の最大の強みである「いつでも」「どこでも」「だれでも」が利用できる環境を構築することで、「安全・安心なまちづくり」を目指しています。

### 葛巻町との連携・指定管理者

当社は、岩手県盛岡市で昭和58年８月に設立、平成3年４月１日に開局し、有線テレビジョン放送事業及び第一種電気通信事業を主な業務として行っている会社で、平成19年にダイバーシティメディア（旧（株）ケーブルテレビ山形）と資本業務提携をし、主要業務のほか、イベント開催や総務省事業など多様性のある事業展開を行っています。

葛巻町とは、平成22年に地域情報基盤施設で整備されたCATVの保守管理について、これまでの当社の実

績を高く評価され、運用が開始された平成23年４月１日から指定管理者として葛巻町と連携し保守運営を行ってきたほか、将来を見据えたICT利活用システム構築の検討でも、連携を図っているところです。

## まち・ひと・しごと創生事業(名称：くずまき見守り＆スマートライフプラットフォーム)

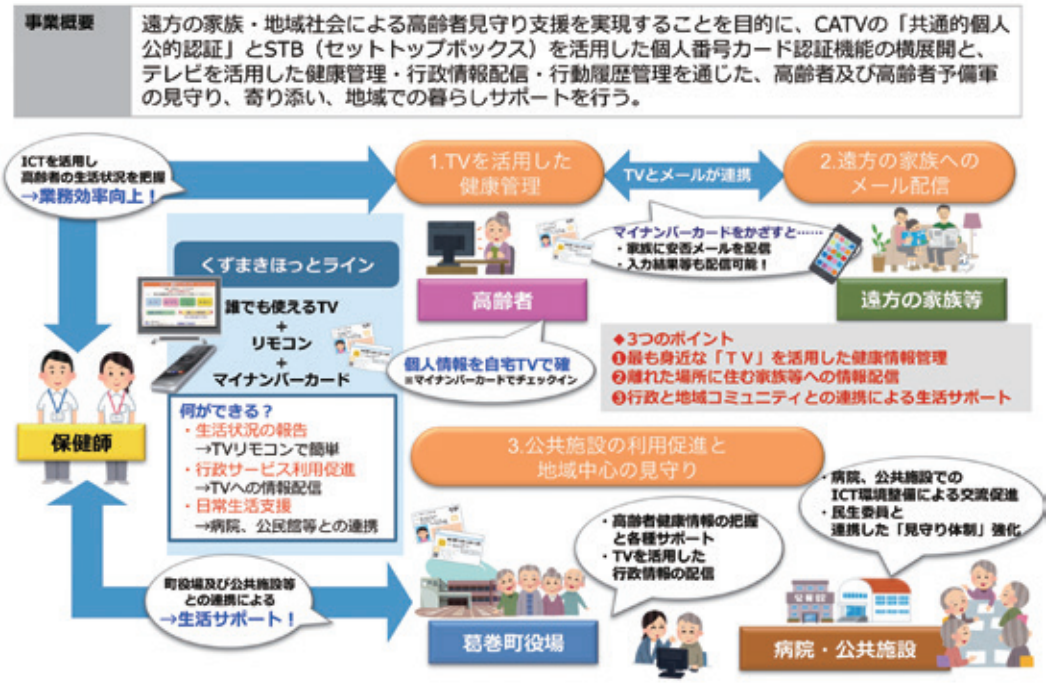
葛巻町では、急速に進む人口減少と少子高齢化、独居高齢者世帯の増加、核家族化等々による生活スタイルの変化や社会情勢の急激な変化により、地域における相互扶助機能の希薄化が進んでいます。

また、高齢者の生活を支えてきた保健師や民生委員・町独自で配置している高齢者生活安全支援員らは、高齢者世帯が点在する集落を効率的に訪問できず、高齢者への暮らしのサポートの在り方が大きな課題となっています。

これら課題の解決策として、町民が家庭で日常的かつ最も身近な「テレビ」を利用した新たなサービスを構築することで、保健師などの見守り支援者の負担軽減と効率化を図るとともに、地域における相互扶助機能、いわゆる地域での「寄り添い」機能の回復を助けるシステムの導入を検討していました。

こうした中、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を踏まえたICTのより一層の利活用を促す総務省の公募事業「ICTまち・ひと・しごと創生推進事業(平成28年度予算)」に鳥取県南部町、米子市や富山県南砺市の成果事例を活用し、葛巻町・岩手ケーブルテレビジョン(株)・日本デジタル配信(株)・岩手県立大学地域連携本部との産学官連携で応募したところ昨年６月29日に事業採択をいただいたものです。

事業は、葛巻町のCATV網と公的個人認証機能(マイナンバーカード)を活用し、高齢者の健康管理機能(健康状態の記録、履歴確認など)、情報配信機能(行政情報発信、伝言サービス、公共施設利用等の行動履歴の把握等)などのサービスを提供することで、保健師が高齢者宅を訪問せずに健康状態などをパソコン上で把握することが可能であるほか、民生委員や町外に住む家族等もリアルタイムに状況を確認することができ、見守り支援の効率化と寄り添いの機能の回復を目指し、今後、加速する高齢化社会へ対応できるシステムの構築を致しました。




「くずまき見守り&スマートライフ プラットフォーム推進事業」事業概要

また、将来においては、今回導入した機能を活用し「高齢者の見守り」のほか、「高齢者の買い物支援」「高齢者の交通対策」などへ拡充を進めていくほか、子育て世代などのニーズに応じた機能開発を追加し、さらなるICTの利活用ときめ細かな住民サービスの構築へ繋げていきたいと考えています。

**STVB(操作端末)の設置例**

高齢者が頻繁に利用する町内5箇所に「くずまきほっとライン」端末を設置。いずれの施設も玄関付近の目立つ場所に端末を配置し、ポスター等での広報活動により、対象者への周知を図っています。※将来的には、高齢者が利用する公共施設・福祉施設や店舗などに設置を拡大予定。

**地区説明会**

利用者(見守り対象者)に向けて、「くずまきほっとライン」端末の操作説明会を各所で実施しました。

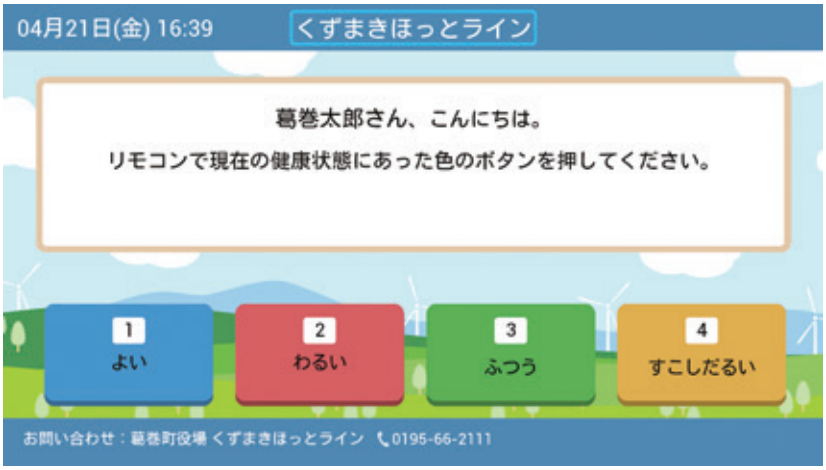
**健康福祉課職員向け説明会**

支援者側（行政）向けに操作説明会を実施しました。

**見守り対象者自宅訪問**

町内の高齢者52名にモニター参加を依頼。モニター宅を町役場職員または岩手ケーブルテレビジョンスタッフが訪問し、利用方法の説明／解説を行いました。

「くずまきホットライン」トップ画面




「くずまきホットライン」体調入力画面